

学校運営協議会記録

日 時 2023 年 6 月 27 日（火） 10：00～11:30

場 所 北海道雨竜高等養護学校 視聴覚室

出席者 学校評議員

佐 野 博 之	國學院大学北海道短期部 教授	○
野 村 耕次郎	雨竜町議会議員	○
柴 垣 仁 美	雨竜町教育委員会 教育委員	○
本 家 秀 文	雨竜町第 7 町内会長	欠
粥 川 之 順	雨竜町商工会副会長	欠
清 水 一 伸	雨竜町立雨竜中学校長	○
米 谷 義 弘	障がい者支援施設雨竜町暑寒の里施設長	○
青 木 勝 美	アートステージ空知理事長	○
中 村 稜 太	雨竜町魅力情報発信員	○
江 良 麻 美	北海道雨竜高等養護学校 PTA 会長	○

本校職員

佐 伯 正 文	北海道雨竜高等養護学校校長	○
藤 川 昌 貴	北海道雨竜高等養護学校教頭	○
板 橋 孝 幸	北海道雨竜高等養護学校事務長	○
御家瀬 豪	総務部長（主幹教諭）	○
佐 藤 寛 人	教務部	○
泉 知 也	進路支援部	○
児 山 英 史	地域支援部	欠
清 野 雅 仁	生徒指導部	○
竹 永 拓 正	僚務部	○

1 校長あいさつ

- ・地域の方々に支えられながら開校 40 周年を迎えた。本年 2 月に久しぶりに協議会を開催することができた。新型コロナウイルス感染症が 5 類移行になったことにともない、今年度は通常どおりに開催したい。様々な御質問や忌憚のない御意見をたまわりながら会を運営していきたい。

2 【説明】学校運営協議会について（教頭）

- ・本日の流れについて説明。令和 5 年 6 月 1 日付けで辞令交付となっている（時間の都合で手交ではなく配付）。

3 【説明】学校経営方針について（教頭、校長） 10：05－

- ・2 月にお集まりいただいた際に説明した内容。3 の組織図について若干の変更を加えている。昨年度までは全体会と部会に分かれていたが、1 つ 1 つの話題について全委員の方々と共有したいという意図で全体会のみとしている。
- ・新しく辞令を交付された方々の名前と学校職員の名前を乗せさせていただいた。部会がなくなったことで本校の職員も整理している。
- ・2 月に御同意いただいていた内容の中の補足事項について説明。社会生活を送る（職業自立を図る）学校である。家庭や地域と連携しながら豊かな人間性を育みたい。教育方針の（3）について、現場実習や地域資源を生かした活動、ボランティア活動について説明した。
- ・経営方針について、センター的な役割を果たしていくことを説明。
- ・今年度 4 年ぶりに同窓会が開かれた。1 人 1 人が社会でいきいきと生活していることを見聞きできた。このような力を身に付けられるように「生徒がわかる授業づくり」「考え、判断し、伝える力の育成」「思いやりの心の涵養」に取り組んでいく。そのために学校・家庭・寄宿舎・地域の連携を大切にしていきたい。

意見

- ・指導の重点の ICT の有効活用について取り組み状況と今後の展望について（野村様）

→昨年度生徒 1 人 1 人に iPad を導入して取り組んでいる（日頃の学習、行事での活用）。新 1 年生については、まだ納入されていないが、夏頃揃う見込み。職員についても夏季職員研修の中で知識や

技術の習得に取り組んでいく。

4 【説明】本校の取組について（総務部） 10：18－

- ・令和5年度の年間予定表（3ヶ月ごと）に沿って、各行事等の説明を行った。コロナウイルス感染症が5類移行となったことにともない、先般行われた体育大会をはじめ、それぞれの行事が制限の少ない形で実施されている（今後の行事等についても同様の見込み）。12月から右の枠に「調」の記載があるが、こちらは調理学習を示すことについて補足説明。コロナ禍以降十分に行うことができなかったが、今年度からは生徒の学習を保障していく予定。
- ・行事の様子（写真）をお示ししながら説明。生徒の顔写真等が含まれるため、委員の方々以外への譲渡やSNSの掲載は御遠慮いただくようお願いした。地域とのつながりを含めて説明しながら各種ボランティアについて説明した。公園（第7町内）の遊具整備についてもあわせて説明した。
- ・見学旅行については3年間の道内旅行があったことを説明し、今年度については関東方面への旅行ができたことを説明した。
- ・作業学習製品販売会については、計画段階では5類移行が濃厚ではあったものの、確定ではなかったため制限のある形態（第○町内で分けて分散した形）で行ったことを説明した。
- ・ライオンズクラブの協力で成り立っている活動である町内施設見学、パークゴルフ交流について説明した。
- ・体育大会については、今年度から運営補助を生徒が担っていく形で実施したことを説明した。多数の保護者及び御来賓の方にお越しいただいたことも紹介。
- ・野村様の御厚意で行えている田植え活動について紹介。
- ・交流学习（雨竜中）については、コロナ以降リモートでの形が続いていたが、今年度は対面の形で実施でき、生徒同士の直接的な関わりを持つことができた。
- ・給食に提供いただいている暑寒メロンや雨竜米アイスなどについても、この場を借りて謝辞を述べた。
- ・地域に根ざした作業学習の取り組みについて、ウッドスタート事業（木工科）とフラワースマイルプロジェクト（農業科）について説明した。

意見

- ・雨竜中との交流について、沿革史によると開校した年から交流を行っており、平成18年度から現在のような形で年2回実施していることがわかった。やはり対面で行えることで活動の隙間時間にも交流をすることができ、微笑ましく見させてもらった。入学してから3ヶ月にも関わらず専門的な知識を丁寧に教えていただき、挨拶など基本的なことも手本を見せていただき、良い刺激になった。（清水様）
- ・開校40周年を迎えたことでの行事として予定されているものはあるのか（野村様）
→特に記念式典は予定していない。体育大会と学校祭は40周年を冠する形で実施する。また、記念品を予定している。
- ・体育大会に参加させもらったが、挨拶なども含めて大変素晴らしい。経営方針どおりに取り組まれていることがよく分かった。（青木様）

5 【意見交流】いじめ防止基本方針の取組について（生徒指導部） 10：38－

- ・本校でのいじめ防止に向けた取り組みについて、地域の方々からも忌憚のない意見をお聞きしたいという意図を説明した（特にHPでの発信などについて）。別紙資料について、資料の読み取り方法を説明した。
- ・本年3月にいじめ防止基本方針が変更となり、本校の中での取り組みについても整理しているところであるという現状についても説明した。

意見

- ・雨竜中では学校便りにアンケートの結果を掲載したり、全体懇談会で説明資料として添付したりしている。いじめ専門委員会を立ち上げ、担当者を配置して窓口としているものの、実際には担任をはじめ管理職、全体で取り組んでいる。（清水様）

6 【意見交流】避難訓練について（生徒指導部） 10：46－

- ・11月実施の避難訓練については、年間の訓練の中で最も大きなものである。今年度から「1日防災学校」と位置づけて、「地震を想定した避難訓練、避難場所での防災食の体験、防災教育（座学、実

踐)をセットで行っている。昨年度は雨竜町から防災グッズをお借りして期間内展示する他、段ボールベッドの体験を行った。暑寒の里の協力を得て、2次避難先として活動したこともあった。可能であれば段階的に今年度から暑寒の里との連携を復活させていただきたい。

意見

- ・いじめ問題について話があったが、福祉の現場では虐待の問題が出てきている。高等養護学校ではどのような取り組みを行っているのか？(米谷様)
- 体罰の根絶を目指して各種資料をとおした研修に努めている。体罰に限らず不祥事防止に向けた啓発(実際の不祥事事案について学年回覧)を行っている。自己目標シートを基にした面談の中でも校長より直接指導している。体罰調査(生徒、教師、保護者)が12月にあり、そちらについても実施しており、場合によっては丁寧な聞き取り等も行っている。

7 【意見交流】現場実習について(進路支援部) 10:53-

- ・進路先確定までの1年次からの取り組みについて説明した。1,2学年は体験実習、3学年は前提実習として行っていることを説明。特に1,2学年の体験実習については、近隣市町村の協力をいただきながら生徒の貴重な学習活動となっている。コロナ禍以降継続的な活動ができなくなった場所はあるものの、新規でつながりを持てている事業所等もある。今後も御協力をいただきたい。

意見

- ・特になし

8 【意見交流】地域に根ざした教育活動について(教務部) 10:55-

- ・地域とのつながりについて他校からも評価いただいていることについて説明し、今後も協力いただくことへの依頼と、さらなる充実につなげていきたいというお願いをした。
- ・昨年度は岩手の教育委員会から本校を選んで視察研修にいただいていることも教頭より補足説明した。

意見

- ・特になし

9 【意見交流】入学生の減少について 11:00-

- ・昨年度までは30名以上の入学生がいたが、今年度の入学生は30名を切り、全校生徒は100名を下回っている状況がある。教育相談も多数行っているが、本校を第一志望としている学校はそれほど多くない。
- ・学校の取り組みを発信するブログ等も行っているが、学校での活動を大々的にPRする方法など御意見があれば頂戴したい。
- ・療育手帳を取得しているものの、普通校を選択するケース等もある。卒業後すぐに働くことを基本とする本校としては手厚い進路指導を行っている。

意見

- ・雨竜中との交流について話題になったが、その交流が始まった平成18年頃は特殊教育から特別支援教育への転換期であった。当時は高校の先生方の理解がほとんどなかったように記憶している。その後道立学校でも障がいのある生徒を受け入れるために校内の改修などを行っていた。専門的な指導を行っている養護学校の入学生が減っているのか？についてはそもそもの生徒数減が背景としてある。しかし、安易に普通校を選択する進路指導については、養護学校の校長と市町村の中学校の校長が一同に会して(道教委の協力も受け)考える時期が来ているように思う。本学も私学であるため入学生を確保するために取り組んでいる(道外からの受け入れなど)。学校だけで考えるには限界があるので、特別支援学校としての役割を考えることが1つのポイントになるように思う(佐野様)。
- ・雨竜で行っていた介護等体験についても、近年は希望する学生が減ってきている。そのため、昨年度からは雨竜ではなく美唄で受け入れてもらっている。雨竜で受け入れてもらっていたときに学生の感想の中には生徒の挨拶と教師の対応について感銘を受けた記載が多くあった。私自身あまり褒めることはないが、雨竜での先生方の対応は素晴らしい(佐野様)。
- ・いじめの対応については、児童相談所の対応の変化(初期対応の甘さ)に一因があると捉えている。初期対応という観点で見えていくと、各家庭での初期対応に期待するには限界があるので、ある程度踏み込んだ対応が必要になるように思う。虐待やいじめについて地域の方々に印象づけるには、事

件が起きた際に本校での対応を示すこと。地域や保護者の関心が高まっているときに対応についての情報提供を行うことが肝要である。(佐野様)

- ・魅力発信のための取り組みについては、自分自身オープンキャンパスや学校説明に行って選んでいたように記憶している。オンラインでどんなに発信してもそこにたどり着かないと情報を得られない。オフラインでの直接的な発信が必要である。道の駅に雨竜の製品が展示してあるが、あるだけではなかなか伝わらない。生徒や教師の休日等もあるので難しい部分はあると思うが、例えば地域の行事で出店するなどの取り組みを検討されるなどの方法がある。自身が観光の業務に携わっているので、そういった機関を活用いただいても良い。(中村様)

→学校説明会では食育の取り組みについて、ブログ発信していることを説明している。

- ・雨竜中学校が雨竜米を札幌に販売に行っていた活動があったかと記憶しているがどういった経緯だったのか？(御家瀬)

→宿泊研修の一環として担当者が考案し、挑戦した。当時は私自身教頭ではあったが、非常に良い経験になり、教師も楽しんで取り組めた。担当の方に御指南いただいて、販売方法など詰めていった。コロナ禍で活動できていなかったが、今年度は実施できた(清水様)。

- ・雨竜中との交流学习の際にプレス空知の方からふるさと納税の返礼品としての取り組みを行ってはどうかと御意見頂いた。前任校では3000円分のセットを作って返礼品としていた。本校の製品だけで3000円分のセットは作るのは難しいと考えていたが、雨竜米や雨竜産の酒米を使った日本酒とセットにするなどの方法があると聞くことができた(校長)。
- ・ふるさと納税について、学科の製品として用意しようと思うと個数の確保が難しいと思われるかもしれないが、個数を限定する方法もある。協力隊の足立がふるさと納税の担当なので、そこを窓口にしてもらえればふるさと納税についても話が進んでいくかと思う(中村様)。
- ・雨竜に住んで20年以上になるが、町民として高等養護と関わることがなかった。地域一体となった取り組みは多くあるが、町民の中の一部であるように感じている。町民からの働きかけも必要かと考えている。(柴垣様)
- ・息子は中学校から特別支援学級に入り、手帳取得など慌ただしく進んだ。学業についていけなくなる可能性の高い普通校よりも養護学校が良いのでは？と中学校の担当と話をしながら進めた。小平も見学したが、雨竜の職員の対応の良さを様々な保護者や教師から見聞きした。保護者も雨竜のことを知らないが、中学校の先生も知っている人とそうでない人がいる。そこへのアピールもできれば良いのかもしれない(江良様)。

10 事務長より

- ・本日の報酬について、事務処理が必要になることから、提出書類の協力をお願いした。